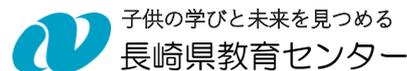


## それは 職員がつながる時



今回も通信第3号「学校が動く その時」から引き続き、「教科等をつなぐ」ことについて考えます。第3号では、教科等をつなぐねらいや「教科等の内容でつなぐ」と「育成したい資質・能力でつなぐ」ことの二つの視点を紹介しました。また、子供たちの資質・能力を育成するために教育活動の質の向上を図るのがカリキュラム・マネジメントですから、「育成したい資質・能力でつなぐ」視点がこれから求められることを確認しました。

では、どのような手順で「教科等をつなぐ」のか。学校教育目標から設定した資質・能力を踏まえて、「教科等をつなぐ」実際を紹介します。

**手順1 学校教育目標から育成したい資質・能力を設定する** 自校において特に重視して育成したい資質・能力を設定します。これについては、県教育センター発行の『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善 No. 2』（平成30年4月）に詳しく示していますので参照してください。 <[https://www.edu-c.news.ed.jp/?page\\_id=102](https://www.edu-c.news.ed.jp/?page_id=102)>

**手順2 育成したい資質・能力に関わる各教科等の資質・能力を設定する** 手順1で設定した資質・能力について、各教科等で関連する資質・能力と、それを育成するのにふさわしい単元を選び出します。

**手順3 教科等のつながりを構想する** 手順1及び2を踏まえて、資質・能力と単元における目標、内容のつながりを構想します(図1)。図1は、特に重視して育成したい資質・能力を「他者とのコミュニケーションを通して、自分の考えを表現する力」と設定した中学校の例です。

図1 教科等のつながりを構想する(イメージ)

<自校において特に育成したい資質・能力>  
他者とのコミュニケーションを通して、自分の考えを表現する力



互いに建設的な議論ができる生徒を育てたいですね。そのために、相手のことを考えながら自分の考えを表現する力を身に付けさせたいですね。

それであれば、国語科では、課題解決に向けて企画会議を開いて話し合うという単元を行っています。その中で自分の立場を明確にして相手を説得できるように話の構成を工夫する力を育てましょうか。



社会科では、日本のエネルギー政策について議論をする授業にします。これも様々な情報を根拠にして自分の考えを相手に伝え、合意形成を図る力の育成につながりますね。

理科では、化学変化と電池の単元で、目的に応じて実験方法を考える時間を設定しています。この時、班別に考えさせて互いに意見を交わす活動を仕組みましょう。議論をする力を育てることになりますね。



## 手順4 年間指導計画を見直す

手順3に示すような構想で年間指導計画を見直し、教科等のつながりを全職員で共有します（図2）。その視点は、次の二つです。

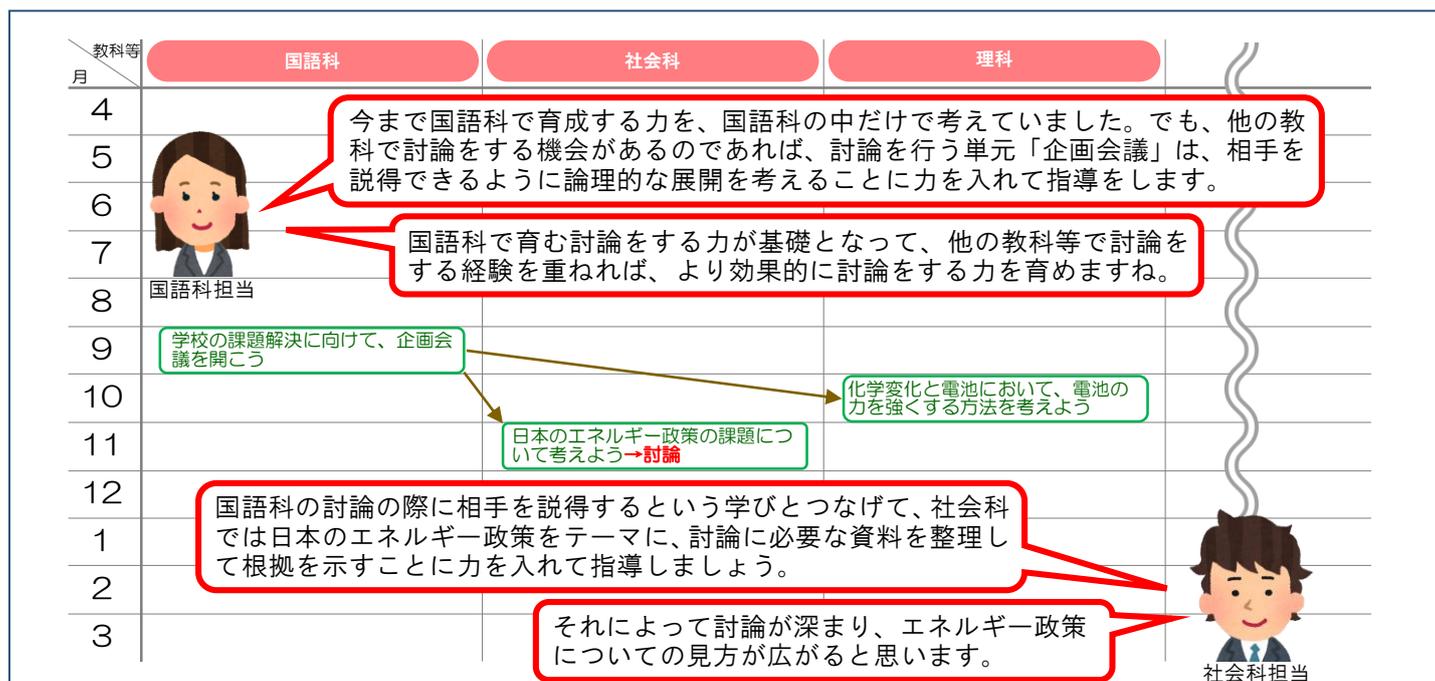
### 教科等の内容でつなぐ

指導内容で連携できないか、関連させることができないか、共同で実施できないか

### 育成したい資質・能力でつなぐ

各教科等で育成を図った資質・能力を他の教科等の学習で更に伸ばすことができないか

図2 「他者とのコミュニケーションを通して、自分の考えを表現する力」をつなぐ視点にした年間計画(イメージ)



※教科等をつなぐとは、例えば、単元の実施時期を他の教科等との関連から変更したり、つながりを意識して学んだことを他の教科等へ橋渡しをしたりすることによって、教育の効果を最大限に高めることがねらいです。よって、ここに示した手順は、全職員で実践することが大切です。

## 教科等をつなぎ、教育活動の質の向上を図りましょう

学年部会や教科部会等において議論を重ね、教科等のつながりを増やしていきましょう。

### 今回のポイント！

### 教科等のつながりを全職員で共有しましょう

#### 育成したい資質・能力の設定

学校教育目標や子供たちの実態から自校において育成したい資質・能力を設定しましょう。

#### 全職員参加の仕組みづくり

年間指導計画に朱を入れる等、教科等をつなぐための取組を可視化することで、全職員が協働してカリキュラムをマネジメントする仕組みをつくりましょう。

次号では、「学校の内と外をつなぐ」（人的・物的リソースの活用）について紹介します。